

日本気象学会大会における託児施設斡旋活動の報告

1. はじめに

大会における託児施設斡旋活動は、会員の大会参加を奨励・促進するための活動のひとつとして、子育て中の会員が十分に大会に参加できることを目的として1997年の春季大会から行われています。

1997年2月当初、大会での保育支援活動の必要を感じた会員がymnet（「天気」1995年42巻8月号p.559参照）を通じてアンケート調査をしました。その結果、44名の方から大変前向きな回答を得たため、活動を開始してよいだろうと考え、大会実行委員会に協力を仰ぐ形で始まりました。これまで、1997年春季（つくば）、1997年秋季（札幌）、1998年秋季（仙台）の各大会期間中の託児施設（公立等の保育園または民間の託児サービス）の斡旋について、後述の daycare メーリングリスト（以下 daycare ML と略記）と各大会実行委員会が共同で取り組んできました。1998年秋季（仙台）大会の際に東北支部から学会理事会へ提案があり、理事会においても大会実行委員会が引き続き託児施設の斡旋に取り組むことにご理解をいただきました（「天気」1998年45巻12月号p.918参照）。また、1999年春季（東京）大会では、託児施設の斡旋は実施されませんでした。今後に向けての情報収集を行いました。

2. daycare ML について

daycare ML は、学会大会期間中の、参加会員の子供の保育に関する情報交換を目的として、会員有志により運営されているメーリングリストです。登録を希望される方は、管理者 masako@kugi.kyoto-u.ac.jp までご連絡ください。

3. 1997年春季（つくば）大会での取り組み

つくば大会では気象学会大会として初めて、託児施設斡旋を試行しました。大会実行委員会の理解を得て協力をいただくことになり、当初筑波大の大会会場での託児を検討しましたが、子供の年齢構成と利用可能

な部屋の設備（窓の高さ、水回り等）とを検討した結果、他の施設を利用する方が安全ということになり、方針変更しました。託児先はつくば在住の会員が下見をして決めました。民間の託児所で利用料金が1,700円/1時間でしたが、自己負担が1日5,600円を越える分につき、大会実行委員会から資金補助をしていただきました。利用者は1歳児1名3日、2歳児1名1日で、資金援助総額は32,000円でした。詳しくは「天気」1997年44巻7月号p.503-504に報告があります。

4. 1997年秋季（札幌）大会での取り組み

札幌大会では、公共の一時保育事業の利用に恵まれました。実行委員会では、大会5か月前の第1回委員会から託児施設斡旋の件を取り上げていただきました。託児施設を探すことは実行委員会として対応して下さることになり、早速6月中に保育園リストを作ってください検討しました。大会委員長の奥様に様子を調べていただいた結果、公共の保育園による一時保育事業がまず安心で費用も安くすむだろうということでしたので、ここからあたることになりました。実行委員の北海道大学の上田会員に札幌市に申し込んでいただいたところ、札幌市開催の会議である、もしくは主催が市在住者による（どちらの解釈か厳密ではありませんが）ということ公共の一時保育事業の適用を認めてくれました。その結果、認可私立の札幌市大通夜間保育園において2歳児1名が2日間（3日の予定が病気のため1日休み）利用しました。資金援助については、この大会では資金繰りが潤沢でなく、まだ理事会でも正式に認められていないことでもあり難しいのではないかと議論になっていましたが、保育料が3歳児未満2000円/1日、3歳児以上1200円/1日プラス食事代という破格でしたので、結果として資金援助の検討も必要なくなりました。保険は、保育園の方で掛かりました。隣に小さな公園もあり、外遊びもできる安心な保育園で、利用会員は大変助かりました。



写真1 札幌での保育所の様子。



写真2 仙台の託児所にて。

5. 1998年秋季（仙台）大会での取り組み

この大会では、高蔽会員からの依頼に基づいて、大会実行委員会においても大会3か月前の7月から取り組みが始められました。実行委員会では(1)仙台市立の保育所の一時保育事業に大会参加者の利用を求め、(2)(1)が叶わなかった場合には民間託児施設を紹介すること、を軸にして取り組まれました。市立保育所への取り組みが優先されたのは、札幌のときと同様に安心して費用が安価であるということからでした。実行委員会からは仙台市の担当課との交渉および文書による要望が行われましたが、市内の居住者・市内への通勤者の子供以外は認められない、ということで残念ながら市立保育所の利用はあきらめざるを得ませんでした。結局、数多く寄せられた一時預かりを行っている民間託児施設の情報と、学会員の知人による下見情報などをもとに、大会会場近くの託児所（ベビーホーム「おのでら」）を予約し、3歳児2名が大会期間の3日間（延べ6人日）利用しました。託児所の利用料金は1日あたり昼食込みで7,500円でしたが、このうち1日あたり2,500円（総額15,000円）が実行委員会より補助されました。保険は、託児所の方で掛かっていました。結果として、なにより会場に至近であったこと、小規模ながら融通がきいた点では恵まれました。近くの公園や図書館に散歩にも連れていってもらい子供も大満足でしたので、利用会員は平和裏に学会大会に専念できました。

6. 1999年春季（東京）大会での取り組み

これまで春季については、1997年のつくば大会を除き、託児にむけての取り組みは行われてきませんでした。今回、どのような形の託児が可能かをいくつかのルートで調べたところ、

・学会会場（大手町）のある千代田区では、公立保育所に区外からの一時預かりの制度がないため利用できないこと（区の児童課に照会）

・無認可保育所が千代田区内には無いこと

・ベビーシッターを派遣する民間業者はあるが、会場近隣での託児所といったものはなさそうなこと

がわかりました。今季も、大会実行委員会には、このような情報収集に共同であっていただくとともに、今大会での託児と daycare ML に関するお知らせを気象学会ホームページに掲載いただきました（4月）。今大会ではこの取り組みを通しての託児利用者はありませんでしたが、上述のように東京（大手町周辺）では札幌・仙台の例と比べても託児の環境は厳しいようです。これまで、会場内に保育室を設けることについては、場所の確保や準備の難しさなどから daycare ML 内でも積極的ではありませんでしたが、このような状況に加え、他学会での実施例の情報（<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/gakkai/info.html>）が寄せられていることから、今後は会場内保育室も現実的な一時保育手段のひとつとして検討が必要かもしれません。

7. おわりに

実際の託児への準備は、その利用に必要な、関連、関心のある方が、できる時々に知恵と力を出し合うことで進んできました。特に、公共の保育園の利用などは、大会実行委員会として取り組んでいただくことが実現のために不可欠でした。これまでの積み重ねによって、情報も具体的な準備の方法も整いつつあり、今後これらが活かされればと思います。託児費用については、基本的には利用者負担ですが、妥当と思われる金額に押えるため、これまでいくつかの大会において、試行

的に1日5,600円もしくは5,000円を越える分について大会実行委員会からの資金補助をいただきました。資金補助についてはその可否を含め、学会において今後さらに検討していただきたい事項です。

各大会で尽力して下さった関係者、大会実行委員の皆さんに感謝申し上げます。本報告が、この取り組みの一端を学会員の皆さんに知っていただくものになれば幸いです。

追記：1999年秋季（福岡）大会について

1999年秋季（福岡）大会の託児所幹旋については大

会実行委員会でこれから検討される予定です。利用を考えられている方は、daycare ML もしくは大会実行委員会（担当委員：中島健介、Tel：092-642-2682、Fax：092-642-2685、E-mail：kensuke@geo.kyushu-u.ac.jp）までご連絡下さい。

（気象研究所 清野直子）

（国立環境研究所 高藪 縁）

（東北大学理学部地球物理学教室 松島 大）

（京都大学理学研究科地球物理学教室 田辺真佐子）



2000年 Western Pacific Geophysics Meeting (WPGM) の特別セッション募集

WPGM プログラム委員会

WPGM (Western Pacific Geophysics Meeting) は、主に西太平洋地区を研究対象にしている地球物理学者のために、AGU (American Geophysical Union (全米地球物理学連合) の略) が2年に1度開いている大会です。2000年には

日 程：2000年6月27日（火）～6月30日（金）

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター
（渋谷区代々木）

で、開催されます。そこで、特別セッションの募集をしています。

尚、2000年 WPGM は地球惑星科学関連学会合同大会（2000年6月25日～6月28日）と同じ場所で、日程も一部分重なる形で開催されます。そこで、国際的なセッションを開くお考えをお持ちの方はぜひ WPGM にご応募下さい。

特別セッションを申込みされる方は、以下の項目について英文でお知らせください。宛先は下記のプログラム委員（気象学会は、住明正が担当しています。メールアドレスは、sumi@ccsr.u-tokyo.ac.jp）です。

- (1) 特別セッションの名称
- (2) コンビナーの氏名・連絡先（電話番号、電子メールアドレス）
- (3) 特別セッションの趣旨を記述した講演募集用の宣伝文（1パラグラフ）

申込みの最終締め切りは1999年11月10日（水）ですが、9月中にはそれまでに集った特別セッションの紹介をEOS (AGUの機関誌) に掲載する予定です。従って、それに間に合うように応募した方が多くの講演を集めることができると思いますので、できるだけ早くお申し込み下さい。